

令和4年度 久留米らしい重なり方デザイン事業の報告

地域共生社会の実現に向け、今年度「支え合うプラン取組推進事業」として上記の事業名称で公募。プロポーザルを行って受託者を決定し、下記の通り実施しました。提案の概要と事業実施から見てきたものを下記の通り報告します。

1 事業目的

人と制度、人と人の関わり方の現状を捉え直し、「フォーマルなサービスとインフォーマルな力の重層化」を検討・実践。その結果として、地域での人と人との関わり方の重層化も目指し、久留米らしい重なり方をデザインすることを目的とする。重層的支援体制整備事業の支援の充実につなげることで、「支え合いが見えるまち」として久留米市が内外で認知されるような基盤整備を目指す。

2 受託者

アウ フォーマル
久留米AU-formal実行委員会

3 事業の内容

提案事業は「AU-case project (アウケースプロジェクト)」。困り事を抱えた人への関わり方として「解決する支援」だけでなく「叶え合う支援」という手法を導入することで、フォーマルとインフォーマルが融合できるのではないかという仮説の下、下記の3つの事業を展開。

■実践事業「KANAE-AU(カナエアウ)project」

5つのケースにフォーマルとインフォーマルがチームとなって対応。「希望」「課題」「誰かの役に立てる」という誰もが持つ三つのポイントを意識して本人の“願いを叶える支援”を実施。簡単に解決できない課題や進展が見えにくいケースに向き合い、重なり合いに必要な要素やできない要因などを表面化する。

■検証事業「KASANE-AU(カサネアウ)project」

実践事業の動きや関係性などを分析し、見えてきたことから仮説を立てて、どのような動きや仕掛けがあればフォーマルとインフォーマルが重なり合うデザイン「AU-formal」が実現できるかを検証する。

■編集事業「TSUTAE-AU(ツタエアウ)project」

実践事業で起こった出来事や検証から見えてきた視点などを、分かりやすく伝えるための編集を行う。地域福祉マガジン【グッチョ】の活用に加え、独自でアーカイブ/プラットフォームになるWEBサイトを開設予定。

4 事業を通して見えたもの（別添資料を参照）

①「解決する支援」と「叶え合う支援」の関係性

制度福祉(フォーマル)で実践している「解決する支援」は、今後も暮らしのセーフティーネットとして欠かせない。そこに、友人・知人などができることで関わる(インフォーマル)「叶え合う支援」を寄せる。「課題と願いは表裏一体」という視点で、両方の存在を認識しながら共に進む関係をデザインしてみた。

そうすることで、あらゆる人が関われる余地が生まれ、その結果、本人の望む状況に今よりも近づける可能性も増える。メリットは、法律や業務範囲、慣例にとらわれない「人としての関わり」、そして“本人の本当の意思を中心に置いた関わり”を実現できることにある。

現時点で描いているフォーマルとインフォーマルの重なるデザインは、**「解決する支援」と「叶え合う支援」という車線が並走している 2 車線道路。**それぞれの役割や強み、支援の視点などを認め合い、理解し合いながら、本人(世帯)を中心に進んでいく関わり方と考える。

②そのためのツール

上記の「叶え合う支援」を行う中で使ってきたツールがあった。(下記 2 項目を参考)これらは、今後いろんな場面で試験的に使いながら更新し、場合によっては形を変える。ツールを作る理由は、①本人の思いをつかむ、②本人を良く知る身近な人だからできることや感じていることを見える化、③ツテを伝えるために必要な情報を共有する ため。現在も引き続き検討中。

※AU シート

専門機関で使っているアセスメントシートから着想。「本人不在の支援をなくす」「本人をよく知る人からの情報を支援に重ねる」「関わる人の自己開示の大切さも表現」などを実現した情報交換ツール。平易なシートで、インフォーマルな関係性の人同士で書き合えることで、表面的には見えてこない本人の強みや希望、本当の課題などが見えやすくなる。

※重層マップ

AU シートを基に、「その人の素敵なところ」「困っているところ」「未来予想図」の三つのポイントを見つけ出し、そこに関係者を当てはめていく。さらにその先に広がる「希望の関係性」(例:歌を教えてくれる人・ライブハウスを持っていて貸してくれる人など。今の関係性に居ないけど本人の願いを叶えたり、課題解決に力を持つ人)を描く。

5 令和 5 年度の同事業の見通し

今年度に見えてきた融合の視点を生かし、重層的支援体制整備事業の「相談支援」「参加支援」との連動や、地域社会への実装を目指した環境整備を進めるための委託事業の仕様を検討する。